

Let's Read Japanese 「ブルックス文庫」と日本語学習



ブルックス文庫はそのイニシャルの LRJ の示すように三つの大きなコンセプトから作れました。Learning（学習）の L, Reading（読む）の R そして Japanese（日本）の J です。レベル別の読みものは日本社会や文化への窓口であり、楽しく読む活動を通して日本語習得につながります。

多読教材としての「LRJ ブルックス文庫」

読みものを使った学習で注目されているのが「多読」です。

読み物を使った学習

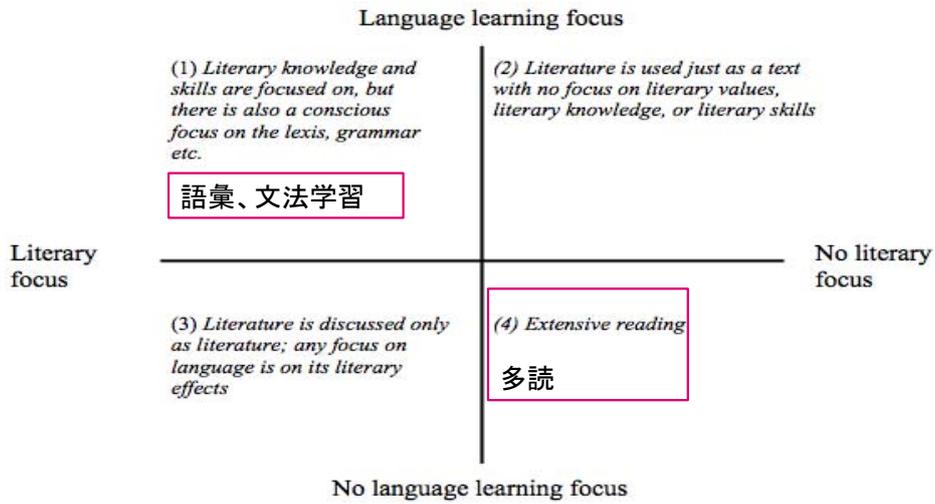
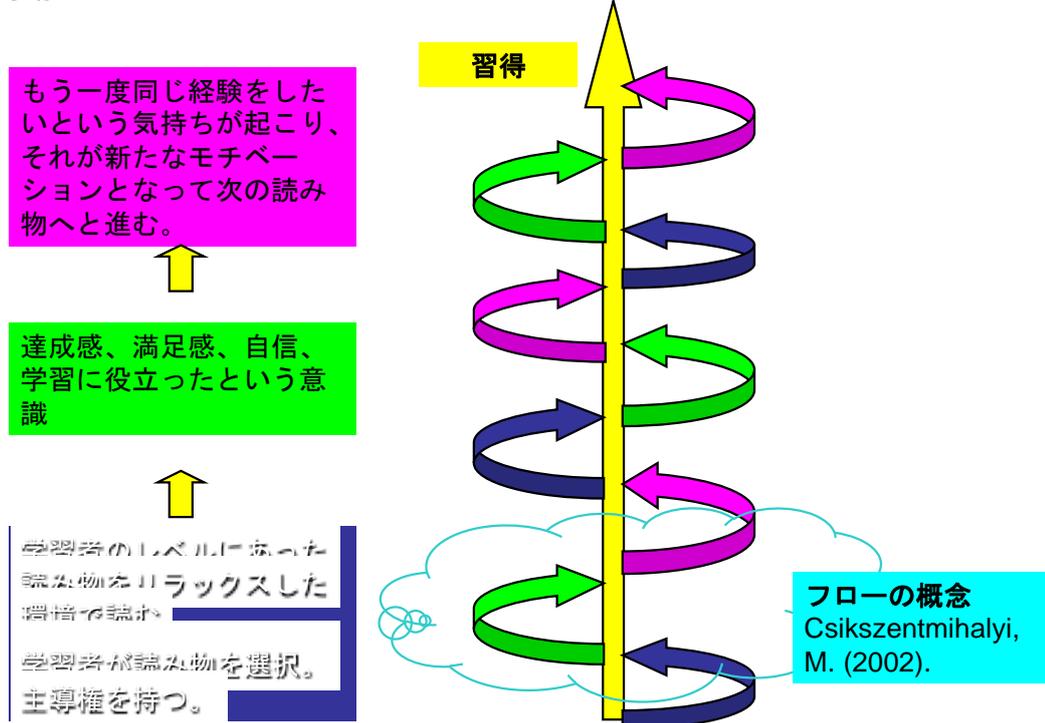


Figure 1. The intersection of literature and language teaching

Amos Paran (2008)

このダイアグラムに示されているように、近年日本語教育でも注目されてきている「多読」は第二言語習得に必要なインプットを提供します。読めば読むほど目標言語に多くふれ、その繰り返しによって習得につながっていくこととなります。

多読のメカニズム



ブルックス文庫は

- 興味深い内容の物語を、楽しく読める
- 日本の子供向けの本ではなく、学習者の知的発達レベルに合ったテキスト
- 日本文化や社会についての知識の提供

という特徴を持ち、学習者のモチベーションを外因性のモチベーションから内因性のモチベーションへと変えていきます。

色々な教室活動に使える「LRJブルックス文庫」

ブルックス文庫の読み物は、一人で楽しく読むだけでなく、いろいろな教室活動に利用できます。

ブルックス文庫の読みものは説明文や案内文ではありません。テキスト1つ1つにドラマがあり、美しいイラストが織り込まれています。この特徴を生かして、ブルックス文庫を日本語学習素材として活用しましょう。

具体的な活動例の前に、まず言語教育の目標について考えてみましょう。

近年の言語教育は言語知識だけでなく、文化能力、コミュニケーション能力を養成し、学習者を言語使用者としてその言語を使って社会の一員（市民）として何をするのかという行動中心の教育へとシフトしています。教室活動ではその様な自律した学習者を育成することが求められます。

では、どのような活動でこれをやっていくことができるのでしょうか。

演劇、演劇手法をとり入れた教室活動

日本語教育で行なわれている演劇、演劇手法をとり入れた教室活動には、

1. 学習者に演劇作品の登場人物を演じさせる。
 - すでに完成されたもの（歌舞伎・能・狂言・古典落語・近代戯曲など）を使用する
 - 学生に創作劇を書かせて、それを演じさせる
例) メッセージ性のある演劇作品を学習者、日本人ボランティアが話し合いを重ねて制作することにより、日本語コミュニケーション力を伸ばすことを目的とした演劇作品制作授業の実践(中山由佳)
2. 戯曲や演劇公演の映像資料を口頭表現練習や聴解練習の教材として活用する。野呂博子「『東京ノート』の実践とその教育効果」
3. 古典・創作の文芸作品を利用するのではなく、パフォーマンス・アートとしての演劇における俳優や演出家たちの演劇的テクニックを利用するものや演劇と語学学習の共通点を見出そうとする試み。(川口義一)

などがあります。こういった授業、教室活動は、学習者が主体となって、他者との協働の中で自らが言葉を選び表現していく活動です。またその結果を身体表現を通して発表することで、学びを体得します。

また、飛田(2016)は従来のロールプレイやシナリオプレイは、「言語運用能力に焦点が置かれている。他人の物語や言葉を追従している。事前に用意された言葉を正しく覚え、使用する。言葉の管理を教師がしている。という傾向にあり、学習者は自分の責任で言葉を選択するということがなく、自分の性格、能力、特技が生かされない。自分の考えや体験が存在しない。他者の考えや感情との関係で自分の言葉を使用するということがない。」と指摘しています。そして、「参加者(学習者も教師も含めて)の関係は、縦ではなく、横の関係を構築する。参加者は受け身ではなく行為者であり、参加者全員が作品の芸術性を管理するという責任を負う。そこでの言語活動は複数の言語、双方向のコミュニケーションであるべきだ」と主張しています。

ブルックス文庫の読みものはいろいろな「演劇」を取り入れた活動に適しています。一冊の本をまるごと使ったり、1つの物語に集中したり、あるいは一ページに注目したりと様々な活用ができます。

活動例：

- 朗読劇
- 日本語劇
- 上記の発表会のプログラム作りポスター作りCM作り
- シナリオ作り
- 字幕作り
- POP 広告
- ミニ会話

教室活動例は以下のようにまとめています。学習者や学習環境は多用ですから、使用される方はこれらの例を参考に自分たちにあった形で教室活動を考案してください。

タイトル	内容がわかるようなタイトル
目的 (この活動で何をするのか、 何ができるようになるのか。)	言語活動- 話す、書く、やりとり、などの言語活動 言語能力- 語彙、文法他どのような言語能力が必要とされるのか、どの能力を養成しようとしているのか。 その他 - 協働、チームワークなど
レベル	CEFR level あるいは 初級・中級など
活動形式	ロールプレイ、演劇、広告作成 など
活動形態	グループワーク、ペア、クラス全体など
準備	準備するもの
時間	必要とされる時間
方法	段階的な方法
バリエーション/ コメント	他の活用法
作成者/作成年	

参考文献

- ICU 日本語教育研究 11 : pp.21-27 実践・調査報告 ©2014 国際基督教大学 日本語教育研究センター ドラマ的活動を取り入れた多読の実践報告—Reading Community の構築を目標として—松井 咲子
- 2014 年 WEB 版『日本語教育実践研究フォーラム報告』1 演劇的手法を取り入れた活動の可能性 The Potential of Using the Theatrical approach in the Classroom 杉山ますよ (早稲田大学) SUGIYAMA Masuyo (Waseda University)
- 日本語教育における「演じること」の意味 - 「文脈化」で学ぶ文法- Significance of “Acting” in Japanese Language Classroom: Learning Language through “Contextualization” 川口義一早稲田大学 - <http://www.princeton.edu/pjpf/pdf/05%20Kawaguchi.pdf>
- 日本語教育と演劇: 民主的社会の構築とその社会に生きる市民の育成に相応しい演劇とはどういうものか? 飛田勘文(桐朋学園芸術短期大学) 一般社団法人アクラス日本語教育研究所 アクラス研修 言語・演劇・デモクラシー、多文化共生社会をめざして - 2016 年 2 月 12 日
- Amos Paran (2008). The role of literature in instructed foreign language learning and teaching: An evidence-based survey. *Language Teaching*, 41, pp 465-496
- Csikszentmihalyi, M. (2002). *Flow: The Classic Work on How to Achieve Happiness*. London: Ryder.
- Day, R. & Bamford, J. (2002). Top Ten Principles for Teaching Extensive Reading. *Reading in a Foreign Language*. 14(2), 142-145.

- Grabe, W. (2010). *Reading in a Second Language*. New York: Cambridge University Press.